

多発する自然災害から、地域と暮らしを守り抜く

災害対応力の強化



橋梁の耐震補強

地震発生時、人命救助・被災地の復旧のためには、高速道路が緊急輸送路としての機能を速やかに確保することが重要です。2016年発生の熊本地震で得た教訓を生かし、災害時に速やかに機能回復できる道路とすべく、耐震補強対策を進めています。



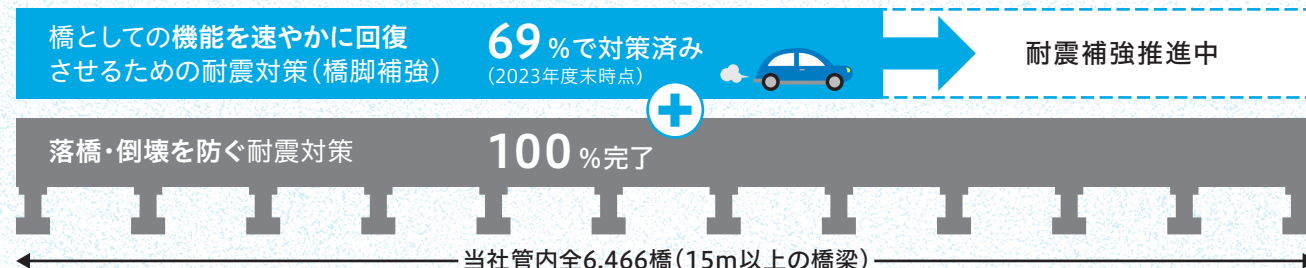
熊本地震で九州道を横架する県道が落橋



河川内での耐震補強工事



橋脚補強の施工状況



耐震対策の概要

補強前	補強後
橋脚補強 大きな地震力に対し橋脚を補強することで変形・破壊を抑制します。	橋脚補強 高知道（新宮IC～大豊IC）久保ヶ内橋
支承取替 地震エネルギーを吸収し、構造系に作用する力を低減します。	支承取替 大分道（湯布院IC～日出IC）福万川橋
落橋防止 想定を超える変位・変形が橋に生じた場合、落橋という不測の事態を防止します。	落橋防止 中国道（北房IC～新見IC）下布瀬橋

更なる推進に向けて

- 1.耐震補強工事の入札不調対策、新技術の採用等の取り組みとともに、組織体制の強化により、耐震補強対策を加速化
- 2.上下線の橋脚が分離している橋梁では、どちらか一方の橋脚補強を優先するなどの手法を採用

高速道路の耐震補強実施計画（2024年1月公表）



情報提供例（デジタルサイネージ）

NEXCO西日本グループの災害対応タイムライン

豪雨や地震による被害を抑制するために、グループ一丸となって災害対応力の強化に努めています。

構造物の強化による被害予防

橋梁の耐震補強



耐震補強はP.25で詳しく紹介

津波一時避難場所の整備



徳島南部道本線横の津波避難場所（赤枠内）

のり面排水機能の強化



強化後の縦溝と集水ます

降雨災害時ののり面被害は、排水構造物が直接関与した崩壊が約半数を占め、さらに、その約半数が縦溝や集水ます等の合流部で発生。これらを踏まえ、高速道路リニューアルプロジェクト（P.21～24）の中で、のり面の排水構造物の大規模修繕に取り組んでいます。

災害対応訓練

交通機能確保等の社会的役割を果たすため、防災業務計画の整備や防災訓練等、グループ一丸となって、関係機関と連携し、ソフト面の災害対応力を強化しています。



グループ会社や関係機関との合同による段差復旧訓練



- ・大規模災害発生時における相互協力に関する協定（自治体）
- ・津波緊急避難における高速道路敷地の一時使用に関する協定（自治体）
- ・災害時の相互連携に向けた協定（電力会社）
- ・災害時における総合通信局との相互連携に関する協定（総務省各総合通信局） など

連携協定



季節前の準備



降雨出水期前の防災会議

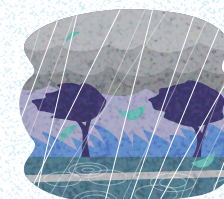


資器材の準備

過去の災害の勉強会



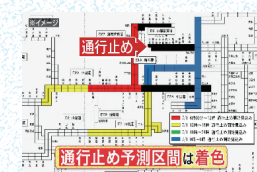
次世代へ災害経験を継承



気象予測等に応じて防災体制を構築強化

お客さまへの情報発信

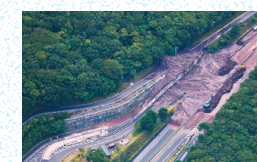
事前通行止め等による被害抑制



テレビCMやウェブサイト、SNS、関係機関との合同記者会見等による情報発信



2024年8月29日に発生した台風10号による大分道の被災



由布岳PA付近
区域外からの土砂流入
（5日後に応急復旧し通行止め
暫定開放。11日後に本復旧し
全面開放）



近年、激甚化・頻発化する集中豪雨や台風等に対し、災害対策を行うとともに、お客さまへ通行規制に関する実施状況等の情報を積極的に発信しています。

臼杵IC～津久見IC
切土のり面の崩壊
（約2ヵ月後に本復旧）

担当者の声 ドローンを活用した早急な被害把握

応急復旧

緊急交通路として速やかに機能回復

本復旧



ドローン撮影は、迅速かつ安全に配慮しながら広範囲にわたり撮影することが可能であり、災害時に被災箇所状況を容易に把握することが出来ます。台風10号による災害発生時は、天候の回復後、臼杵IC付近と由布岳PA付近の被災状況を空撮し、復旧に向けた情報収集を行いました。また、復旧工事着手後は進捗状況の撮影も実施。引き続き、訓練を重ね、災害発生時の早期復旧に貢献できるよう日々精進していきます。

西日本高速道路エンジニアリング九州（株） 別府支店 点検課 岡 凜太郎



台風10号での空撮の様子